

千代田地区くらしの相談室長・区議予定候補 着付講師

日本共産党

このまちから
政治を。
希望ある

清川まなみ

神保町で飲食店34年

飯島和子 区議とバトンタッチ

清川まなみ 誰もが大切にされる千代田へ

- ①医療をささえ、安心の老後をつくります
介護保険料・国保料等の負担を軽減します。がん検診への支援をつよめます。
ケア労働に携わる職員を十分に確保し、処遇を改善します。
- ②子どもも親も笑顔の子育て・教育支援
「くだんしたこどもひろば」など、再開発で閉鎖された後の遊び場を確保します。学校給食を無償にします。
- ③あらゆる分野でジェンダーの視点をつらぬきます
意思決定の場に女性を増やします。「国は選択的夫婦別姓の実現を」の声を都心・千代田からあげていきます。
- ④人にやさしいまちづくりを
住民と環境にやさしいまちづくりをすすめます。

お気軽にご相談下さい
メール holacalaca35@gmail.com
TEL 090-1255-6684
@kiyokawamanami

ご意見・ご感想をお寄せください
日本共産党千代田地区委員会
TEL3294-8411 FAX3294-8417

千代田区民新聞 2022年秋 号外
発行 千代田区民新聞社
千代田区神田須田町1-30-1-101 日本共産党
の清川まなみさんの活動を紹介します。

「戦争を起こさせない外交」に知恵と力を尽くす政治に

ウクライナ危機に乗じて自民党や維新の会が軍事費2倍化、9条改悪を主張しています。しかし、戦争を起こさせないことこそ政治の役割ではないでしょうか。平和の願いを託してください。



プロフィール 1964年荒川区生まれ●桜丘女子高校（現・桜丘中学・高校）商業科、装道礼法きもの学院教授科卒●太陽信用金庫（現・城北信用金庫）勤務●神田神保町で飲食店「カラベラ小劇場」を経営、着付講師●趣味は茶道（表千家）●資格：きものコンサルタント1級、調理師免許 ●神田神保町1丁目在住

区政に挑む私の3つの思い

このまちから
政治を。
希望ある

3
将来世代に豊かな地球環境を手渡したい

2
ジェンダー平等、多様性を認めあう社会を

て政治うごかす 日本共産党 千代田区議団

子どもには、お金の心配なく医者にかからせてやりたいー切実なお声をいただき、共産党区議団が初めてとりあげたのは1992年です。翌年に3歳までの医療が無料になりました。

子ども医療費無料化の前進

1992年	共産党区議団が区議会で質問
1993年	3歳までの無料化が実現
1995年	就学前まで無料化
2007年	中学3年まで無料化
2011年	18歳まで無料化

最初は3歳までだったー
子どもの医療費の無料化



左から木村正明区議、清川まなみ、飯島和子、牛尾こうじろう両区議

コロナ禍で店の営業が苦しい中、2人のお母様の介護と着付講師を苦勞も見せずにやってのける清川さん。「聴く力」と「芯の強さ」を持つ清川さんは私の最良の後継者です。
私に倍するお力添えを心からお願いします。
飯島和子

住民のみなさんの声から出発、粘りぬい

引き続き3人の区議団を

高齢者の2人に1人が加齢性の難聴といわれます。しかし、補聴器は高額です。共産党区議団は2006年、補聴器助成制度の導入を提案。繰り返しとりあげ、ついに2012年度に実現。その後も助成額の引き上げを求め、2019年度からは2倍の5万円に。たくさんの方から喜びの声をいただいています。

高くても買えない—— 補聴器の補助制度を実現

15年後の2019年、ついに復活して歓迎されています。

2人に1人ががんにかかると言われる時代です。それなのに、千代田区は2004年からがん検診を有料に。共産党区議団は、無料の区と比べて、千代田区は受診率が低い。ことも明らかにして何度も無料化復活を求めました。



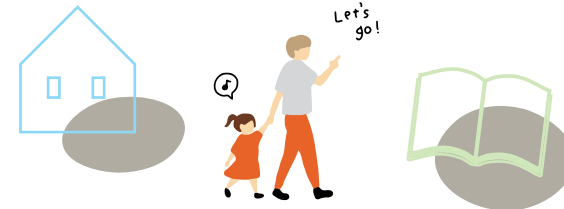
補聴器購入への助成拡充を求め、厚生労働省へのヒアリングに参加。山添拓参院議員（右）と清川まなみ（左）＝2022年8月24日

受診率をしめして—— 無料のがん検診を復活

日本共産党 清川 まなみ

1 このまちで、安心して暮らし、歳をとる

バブルのときは、地上げの嵐が吹きあれ、人口が激減したこのまちで、その後、マンションが増え、人口も増えました。しかし、ずっと千代田区で暮らし、ずっと千代田区で暮らしてきた方、お店を営んできた方が生活し続けられるまちになっているでしょうか。子どもの遊び場や年金で暮らせる施設づくりが追いついているでしょうか。このまちで、安心して暮らし、歳をとれるよう政治を変えます。



神保町の飲食店で34年。千代田区で暮らし、はたらくみなさんの声を聞いてきました。その思いを胸に、区政に挑戦します。



わたしの「原点」と日本共産党 「一人ひとりに寄りそい、冷たい政治を変えたい、



営む飲食店でざっくばらんに語り合う（右から2人目）

日本共産党 清川 まなみ

姉らしい決意に感銘 精一杯応援したい
姉は、製本業の家庭の長女として私たち妹ふたりと弟のめんどろをみながら、何事も熱心に学び、常に自分のことより家族や周囲の人に寄り添う人です。私の上の子は重度の自閉症、下の子が軽度の学習障がいがあります。姉は理解して一人ひとりに合わせて寄り添い、よいコミュニケーションをとってくれています。家族や周囲の方々にも分け隔てなく接し、支援している姉を心から尊敬しています。
区政に挑戦すると聞き、驚くとともに姉らしさを感じ、その向上心に感銘を受け、精一杯応援したい気持ちでいっぱいです。
妹・中野こすぎ

お客さんの話が私の糧に
20代の時に神保町の飲食店「カラベラ小劇場」にほれ込み、信用金庫から、周囲の不安を押し切って転職して以来、34年間働き、3年前からは経営者に。働く人、くらす人から仕事やくらしの喜びや苦勞を聴いてきました。この経験が視野を広げました。

「声をあげれば変わる」
店を継いでまもなく、養母と実母の体調が悪化。実母の入院費が数十万円かかり途方に暮れていた時、共産党の飯島和子区議に相談し、「了解のない差額ベッド代は払わなくてもいい」ことを知りました。病院と交渉した結果、約30万円が返ってきたのです。「声を上げること、行動することがいかに大切か」に気付きました。

「グチをいうならその原因をなくせばいい」
共産党に入るときには悩みましたが、養母の「グチをいうならその原因をなくせばいい」という言葉にも強く背中を押されました。今度は、私が原因をなくす力になりたい」と区政に挑戦する決意をしました。



このまちから 希望ある政治を